

教科	国語	科目	現代の国語	単位数	2単位	年次	1年
使用教科書	精選 現代の国語（三省堂）						
副教材等	漢字Lab 3500（浜島書店）／デジタル版漢字テスト（浜島書店）						

1 授業及び学習の方法等

<p>I〔知識及び技能〕の獲得において、次のような内容を学習する。</p> <p>①言葉の特徴や使い方（漢字・語彙・組立て・修辞・表現の特色等）について知り、文章や話の表現、理解の中で用いる。/②話や文章に含まれている情報の扱い方を学ぶ。/③実社会との関わりを考えるための読書の意義と効用について学ぶ。</p> <p>II〔思考力・判断力・表現力〕の獲得において、次のような内容を学習する。</p> <p>①「話すこと・聞くこと」では、目的や場に応じて、適切に自分の考えを伝えたり、他者の話を聞いて、自身の考えを深めたりする。/②「書くこと」では、目的や意図に応じて内容を吟味し、構成・展開・表現を工夫して、自分の考えを書く。また、自身で確かめ、他者から助言を得て、文章を捉え直す。/③「読むこと」では、文章の内容・構成・論理展開を的確に捉え、要点を把握する。また、複数の情報を関連付けながら、自身の考えを深める。</p> <p>★ I及びII、いずれについても、主体的かつ協働的に授業に参加し、課題に取り組むことが求められる。</p>
--

2 学習の到達目標

<p>① 実社会に必要な国語の知識や技能を身に付ける。</p> <p>② 論理的に考える力や深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばし、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができる。</p> <p>③ 言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって読書に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚をもち、言葉を通して他者や社会に関わろうとすることができる。</p>

3 学習評価（評価規準と評価方法）

観点	a：知識・技能	b：思考・判断・表現	c：主体的に取り組む態度
観 点 の 趣 旨	実社会に必要な国語の知識や技能を身に付けている。	論理的に考える力や深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばし、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりしている。	言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって読書に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚をもち、言葉を通して他者や社会に関わろうとしている。
評 価 方 法	・定期考査 ・ワークシートの記述 等	・定期考査 ・ワークシートの記述 ・授業の取り組み状況 等	・課題への取り組み状況 等

※ 上に示す観点に基づいて、学習のまとまりごとに評価し、学年末に5段階の評定にまとめます。

※ 学習内容に応じて、それぞれの観点を適切に配分し、評価します。

4 学習活動

期	単元	内容（項目）、教材、目標	主な評価規準
前期 中間	知らないものに 出会う	【話す・聞く】〈5時間〉 ▼「ぐうぜん、うたがう、読書のススメ」 ▼「塩トンの読書」 ▼《“この一冊”を伝え合おう》	a：実社会において必要な常用漢字の読みや書きに慣れ、語句の量を増し、文や文章の中で使うことができる。（1ウ・工）／文・話・文章の組立て方や接続の仕方について理解することができる。（1オ）／引用の仕方や出典の示し方について理解を深め使うことができる。（2オ） b：【話／聞】自分の考えが的確に伝わるよう、話の構成や展開を工夫することができる。（Aイ） 【書】目的や意図に応じて、実社会の中から適切な題材を決め、伝えたいことを明確にすることができる。（Bア） 【読】内容や構成、論理の展開などについて叙述を基に的確に捉え、要旨や要点を把握することができる。（Cア） c：言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって読書に親しみ字を向上させ、言葉を通して他者や社会に関わろうとしている。
	相手のことを 考える	【読む】〈4時間〉 ▼「水の東西」▼「言語は色眼鏡である」	
	言葉を 見つめる	【書く】〈8時間〉 「辞書は生きている」／「アガルとノボル」 《「ことば」についてわかりやすく説明する》	
前期 期末	ワールド・ カフェ	【話す・聞く】〈8時間〉 「大切な会話ーワールド・カフェへの招待」 《ワールド・カフェをやってみよう》	a：実社会において必要な常用漢字の読みや書きに慣れ、語句の量を増し、文や文章の中で使うことができる。（1ウ・工）／情報と情報の関係について理解し、推論の仕方、情報の妥当性や信頼性の吟味について理解を深め使うことができる。（2イウエ） b：【話／聞】論点を共有し、考えを広げたり深めたりしながら、話合いの目的、種類、状況に応じて、表現や進行など話合いの仕方や結論の出し方を工夫することができる。 【書】自分の考えや事柄が的確に伝わるよう、根拠の示し方や説明の仕方考えるとともに、文章の種類や、文体、語句などの表現の仕方を工夫することができる。（ウ） 【読】目的に応じて、文章や図表などに含まれている情報を相互に関係付けながら、内容や書き手の意図を解釈したり、文章の構成や論理の展開などについて評価したりするとともに、自分の考えを深めることができる。（イ） c：言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって読書に親しみ字を向上させ、言葉を通して他者や社会に関わろうとしている。
	情報社会を 生きる	【読む】〈5時間〉 ▼「ネットが崩す公私の境」▼「選べる社会の難しさ」▼「情報と身体」▼《情報社会について考えようー統計資料の読み》	
	科学技術と 人間	【書く】〈11時間〉 ▼「人がアンドロイドとして甦る未来 アンドロイド基本原則」▼「人間にできて機械にできないこと」▼	
後期 中間	「私」 多文化共生社会と	【読む】〈5時間〉 ▼対談「『国際貢献』ではなく『国際協力』である」▼「共生社会で求められる『相対的よそ者』の視点」▼「グローバル化の光と影」▼《ポスターセッションで発表しよう》	a：実社会において必要な常用漢字の読みや書きに慣れ、語句の量を増し、文や文章の中で使うことができる。（1ウ・工）／情報と情報の関係について理解し、推論の仕方、情報の妥当性や信頼性の吟味について理解を深め使うことができる。（2イウエ） b：【話／聞】論点を共有し、考えを広げたり深めたりしながら、話合いの目的、種類、状況に応じて、表現や進行など話合いの仕方や結論の出し方を工夫することができる。（オ） 【読】目的に応じて、文章や図表などに含まれている情報を相互に関係付けながら、内容や書き手の意図を解釈したり、文章の構成や論理の展開などについて評価したりするとともに、自分の考えを深めることができる。（イ） c：言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって読書に親しみ字を向上させ、言葉を通して他者や社会に関わろうとしている。
	思考の枠組みを 広げる	【話す・聞く】〈8時間〉 ▼「自然をめぐる合意の設計」▼「マイクロディベートとは」▼《マイクロディベートをやってみよう》	
後期 期末	マイクロディベ ート	【読む】〈5時間〉 ▼「『見える文化』／『見えない文化』」▼ 「ありのままの世界は見えない」▼「コインは円形か」▼《相互理解のために考えよう》	a：実社会において必要な常用漢字の読みや書きに慣れ、語句の量を増し、文や文章の中で使うことができる。（1ウ・工）／情報と情報の関係について理解し、推論の仕方、情報の妥当性や信頼性の吟味について理解を深め使うことができる。（2イウエ） b：【書】目的や意図に応じて書かれているかなどを確かめて、文章全体を整えたり、読み手からの助言などを踏まえて、自分の文章の特長や課題を捉えなおしたりすることができる。（工） 【読】目的に応じて、文章や図表などに含まれている情報を相互に関係付けながら、内容や書き手の意図を解釈したり、文章の構成や論理の展開などについて評価したりするとともに、自分の考えを深めることができる。（イ） c：言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって読書に親しみ字を向上させ、言葉を通して他者や社会に関わろうとしている。
	生命について 考える	【書く】〈11時間〉 ▼「生物と無生物のあいだ」▼「ヒトゲノムの意義」▼「命は誰のものなのか」▼《小論文を書いてみよう》	

※ 表中の観点について a：知識・技能、 b：思考・判断・表現、 c：主体的に取り組む

※ 授業進度等により教材等が変更されることもある。

※ 年間の各領域時間数 「話／聞」…（ 21 ）時間、「書」…（ 30 ）時間、

※ 「読」…（ 19 ）時間

教科	国語	科目	言語文化	単位数	2単位	年次	1年
使用教科書	精選 言語文化(三省堂)						
副教材等	体系古典文法 九訂版(数研出版)／体系古典文法学習ノート 三訂版(数研出版)／体系漢文 三訂版(数研出版)／体系漢文準拠ノート 改訂版(数研出版)／各種プリント等						

1 授業及び学習の方法等

- 1、上代から現代にわたる作品や関連文章(評論等)を読み、様々な内容やものの見方、感じ方、考え方に触れ、我が国の言語文化について論述したり発表したりすることで「読む」力を高める。
- 2、異なる時代・文化のもとに成立した作品を読み比べ、それらを比較して論じたり批評したりすることで「読む」力と「書く」力を高める。
- 3、古典作品や伝統的行事・文化に関する題材を選び、それに関するレポートを作成したり相互観賞したりすることを通して、「書く」力を高める。
- 4、様々な作品や文章を読むことで、語感を磨き、語彙の質を高める。
- 5、ペアやグループでの学習によって、自主的な活動を促す。

2 学習の到達目標

- 言葉による見方・考え方を働かせ、言語活動を通して、国語で的確に理解し効果的に表現する資質・能力を次のとおり育成することを目指す。
- (1) 生涯にわたる社会生活に必要な国語の知識や技能を身に付けるとともに、我が国の言語文化に対する理解を深めることができるようにする。
 - (2) 論理的に考える力や深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばし、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができるようにする。
 - (3) 言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって読書に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚をもち、言葉を通して他者や社会に関わろうとする態度を養う。

3 学習評価(評価規準と評価方法)

観点	a:知識・技能	b:思考・判断・表現	c:主体的に取り組む態度
観点の趣旨	生涯にわたる社会生活に必要な国語の知識や技能を身に付けているとともに、我が国の言語文化に対する理解を深めている。	「書くこと」、「読むこと」の各領域において、論理的に考える力や深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばし、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりしている。	言葉を通して積極的に他者や社会に関わったり、ものの見方、感じ方、考え方を深めたりしながら、言葉がもつ価値への認識を深めようとしているとともに、読書に親しむことで自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚をもとうとしている。
評価方法	<ul style="list-style-type: none"> ・定期考査 ・小テスト ・ワークシート ・レポート 等	<ul style="list-style-type: none"> ・定期考査 ・ワークシート ・レポート ・ふりかえりシート 等	<ul style="list-style-type: none"> ・ワークシート ・レポート ・ふりかえりシート 等

※ 上に示す観点に基づいて、学習のまともりごとに評価し、学年末に5段階の評定にまとめます。

※ 学習内容に応じて、それぞれの観点を適切に配分し、評価します。

4 学習活動

期	単元	内容(項目)、教材、目標	主な評価規準
前期中間	色彩と光に満ちた世界	1、春の光【7時間】 「漢文の世界へ」 孟浩然「春暁」 杜甫「春望」 「春はあけぼの」(枕草子) 山本淳子「枕草子のたくらみ」 「古典の四季・美意識」	a: 我が国の言語文化の特質や、その文化的背景について理解する。 古典を読むために必要な文語のきまりや訓読のきまり、古典特有の表現などについて理解する。 b: 【読】作品に表れているものの見方、感じ方、考え方を捉え、内容を解釈する。また、作品の成立した背景や他の作品との関係をふまえ、内容の解釈を深める。 【読】多読・比較読みを通じて、自分のものの見方、感じ方、考え方を深め、我が国の言語文化について自分の考えをもつ。 【書】自分の思いが効果的に伝わるよう、文体、描写、語句などの表現の仕方を工夫する。
		2、万葉集の世界【5時間】 「万葉集」(あかねさす、春の苑) 「和歌——つながろうとする言葉」 「英語で味わう万葉集」	c: 作品の成立背景・文化的背景を鑑みて、作品解釈をしようとしている。[1][2][3] 万葉仮名や英訳で書かれた和歌を鑑賞して、表記の特徴とそこから広がる表現の奥深さを理解しようとしている。[2]
		3、成人と結婚【5時間】 「その子二十——短歌」 「黄金ある竹」(竹取物語) 「初冠」(伊勢物語・恋する伊勢物語)	
前期期末	命と向きあう	4、命と向きあう【8時間】 蛍の和歌 「漁夫之利」「借虎威」(戦国策) 石垣りん「シジミ」 吉野弘「I was born」 林京子「空缶」	a: ことばや文章の意味は、文脈の中で形成されることを理解する。 古典を読むために必要な文語のきまりや訓読のきまり、古典特有の表現などについて理解する。 古典の世界に親しむために、作品や文章の歴史的・文化的背景などを理解する。 b: 【読】作品に表れているものの見方、感じ方、考え方を捉え、内容を解釈する。また、作品の成立した背景や他の作品との関係をふまえ、内容の解釈を深める。 【読】多読・比較読みを通じて、自分のものの見方、感じ方、考え方を深め、我が国の言語文化について自分の考えをもつ。 【書】自分の思いが効果的に伝わるよう、文体、描写、語句などの表現の仕方を工夫する。
		探究	5、古典散策レポート【2時間】
	物の怪の世界	6、鬼と羅城門【6時間】 「芥川」(伊勢物語・恋する伊勢物語) 「玄象といふ琵琶、鬼のために取らるること」(今昔物語集) 芥川龍之介「羅生門」	c: 作品の内容や人物像を積極的に読み取り、命と真摯に向き合ったり、物の怪とともに生きた時代の人々の心情を理解したりしようとしている。[4][6][7] 古典作品に興味を持ち、現代の生活との関わりを理解しようとしている。[5]
7、妖怪の世界【2時間】 「奥山に猫またといふものありて」(徒然草)			
後期中間	月を愛でる	8、秋の風景【6時間】 「丹波に出雲といふ所あり」(徒然草) 「古今和歌集」(秋来ぬと、小倉山、天つ風、天の原) 「季語と歳時記」	a: 言葉には、文化の継承、発展、創造を支える働きがあることを理解する。 古典を読むために必要な文語のきまりや訓読のきまり、古典特有の表現などについて理解する。 我が国の言語文化に特徴的な表現の技法とその効果について理解する。 b: 【読】作品に表れているものの見方、感じ方、考え方を捉え、内容を解釈する。また、作品の成立した背景や他の作品との関係をふまえ、内容の解釈を深める。 【読】多読・比較読みを通じて、自分のものの見方、感じ方、考え方を深め、我が国の言語文化について自分の考えをもつ。 【書】自分の思いが効果的に伝わるよう、文体、描写、語句などの表現の仕方を工夫する。
		9、月にももの思う【5時間】 李白「静夜思」 白居易「八月十五日夜、禁中独直、对月憶元九」 「推敲」	c: 古来から愛でられてきた「月」に、人々が託した心情を理解しようとしている。[8][9][10] 詩歌の限られた音数に託されたメッセージ性や、その独特のリズムを味わおうとしている。[8][9][10]
		10、「奥の細道」と月【7時間】 李白「春夜宴桃李園序」 「旅立ち」(奥の細道) 多和田葉子「月の誤訳」	
後期期末	「あせらたまの」	11、新しい時代へ【7時間】 「祇園精舎」「木曾の最期」(平家物語) 「先従隗始」「鶏鳴狗盗」(史記)	a: 我が国の言語文化に特徴的な語句の量を増し、それらの文化的背景について理解を深め、文章の中で使うことをとおして語感を磨き、語彙を豊かにする。 古典を読むために必要な文語のきまりや訓読のきまり、古典特有の表現などについて理解する。 b: 【読】作品に表れているものの見方、感じ方、考え方を捉え、内容を解釈する。また、作品の成立した背景や他の作品との関係をふまえ、内容の解釈を深める。 【読】多読・比較読みを通じて、自分のものの見方、感じ方、考え方を深め、我が国の言語文化について自分の考えをもつ。 【書】自分の思いが効果的に伝わるよう、文体、描写、語句などの表現の仕方を工夫する。
		12、新しい世界へ【6時間】 門出(土佐日記) リービ英雄「日本語の部屋」	c: 先人たちが残した言葉や思想に触れ、我が国の言語文化の特性や、変わりゆく社会のあり方について理解を深めようとしている。[11][12][13]
	思想国	13、思想を学ぶ【4時間】 論語	

※ 表中の観点について a:知識・技能、 b:思考・判断・表現、 c:主体的に取り組む態度 である。

※ 授業進度等により教材等が変更されることもある。

※ 年間の各領域時間数 「書」…(5)時間、「読(古典)」…(45)時間、「読(近代以降)」…(20)時間

教科	国語	科目	現代文探究 I	単位数	2単位	年次	2年
使用教科書	論理国語(大修館書店)／文学国語(筑摩書房)						
副教材等	漢字Lab 3500(浜島書店)／デジタル版漢字テスト(浜島書店)／デジタル版 ビジュアルカラー国語便覧(大修館書店)／入試現代文頻出語700(数研出版)／各種プリント等						

1 授業及び学習の方法等

<p>1.論理国語、文学国語の教科書を両方使用して授業を進める。補助教材としてプリントも使用する。</p> <p>2.グループワークやペアワークを随所に組み込み、自主的な学習を求める。</p> <p>3.論理的文章においては正確・的確な根拠にもとづく読解力、小説・詩歌においては心情を豊かに読み取る力を培う。</p> <p>4.自ら思考を進めていくための語彙力の充実と読解力の充実を2本柱としながら、記述力を養う。</p> <p>5.漢字、ならびに現代文単語は主に授業時間外の課題とする。週1回の漢字、単語テストに取り組むこと。取り組んだ内容は、定期考査に出題する。</p>

2 学習の到達目標

<p>1.近代以降の様々な文章について、筆者の意図を正確に読み取り、その内容を適切に表現できるようにする。</p> <p>2.語句の意味や用法を的確に理解し、自分の言語活動に役立てられるだけの語彙力を養う。</p> <p>3.ひとつの課題から自らの意見を持ち、思考し、伝達する力を養う。</p> <p>4.読書を通して、人間や社会や自然に対する深い見方・感じ方・考え方を体得する。</p>
--

3 学習評価(評価規準と評価方法)

観点	a:知識・技能	b:思考・判断・表現	c:主体的に取り組む態度
観 点 の 趣 旨	<ul style="list-style-type: none"> 文章を読む上で必要な漢字能力、知識を身に付けている。 読み取った文章を的確に伝え得るだけの語彙力を養い、それを自分の言葉として扱うことができている。 時代背景など、読解に必要な文学的知識、歴史的知識を習熟している。 現代の語彙だけではなく近代の語彙にも精通し、読書の幅を広げられている。 	<ul style="list-style-type: none"> 語彙を自分のものとして、自らの言語表現に活かすことができている。 読み取った文章を身近な状況と照らし合わせ、自分と関わりのある現代の問題として捉えることができている。 言葉を的確に使用し、自らの考えを第三者に表現することができる。 相手から伝えられた情報を正しく理解し、自らの考えを深めることができている。 	<ul style="list-style-type: none"> 総合的な言語能力の獲得に向けて、自ら学習を調整し、学ぼうとしている。 読み取った文章を自分の身近な問題として把握し、課題に臨もうとしている。
評 価 方 法	<ul style="list-style-type: none"> 定期考査 ワークシート 小テスト 等	<ul style="list-style-type: none"> 定期考査 ワークシート レポート 等	<ul style="list-style-type: none"> 授業態度 ワークシート レポート 等

※ 上に示す観点に基づいて、学習のまとめごとにより評価し、学年末に5段階の評定にまとめます。

※ 学習内容に応じて、それぞれの観点を適切に配分し、評価します。

4 学習活動

期	単元	内容(項目), 教材, 目標	主な評価規準
前期中間	小説・文 随想・詩歌を 理解する I	1.【評論】宇野常寛「世界を広げる「批評」の言葉」・平田オリザ「対話の精神」 2.【小説】中島敦『山月記』・川上弘美『神様』 3.【評論】清岡卓行「ミロのヴィーナス」 4.【随想】坂口安吾「ラムネ氏のこと」	a: 文章読解に必要な語彙力を高めながら、文章の中で積極的に活用している。 b[読]: 評論を通じて、筆者の考え方や物事を見る観点を学び、自身の視野を広めたり考えを深めたりしている。また小説、随想を通じて、多様な作品との比較から、文体の特徴や効果について、十分に考察を深めている。 c: 小テストや授業中の発問、ワークシートなどに意欲的に取り組もうとしている。
前期期末	小説・文 随想・詩歌を 理解する II	5.【評論】山田昌弘「家族化するペット」・広井良典「コミュニティから見た日本」 6.【随想】小川洋子「死者の声を運ぶ小舟」・茨木のり子「空と風と星と詩」 7.【評論】立川健二「記号論と生のリアリティ」・中屋敷均「科学は生きている」 8.【随想】高橋和巳「論語—私の古典」	a: 文体の特徴や修辞などの様々な表現技法を適切に理解しながら、効果的に活用している。 b[読]: 評論を通じて、筆者の考え方や物事を見る観点を学び、自身の視野を広めたり考えを深めたりしている。また小説、随想を通じて、多様な作品との比較から、文体の特徴や効果について、十分に考察を深めている。 b[書]: 様々な観点から情報を収集し、整理して、目的や意図に応じた表現を用いて表現している。 c: 小テストや授業中の発問、ワークシートなどに意欲的に取り組もうとしている。
後期中間	小説・文 随想・詩歌を 理解する III	9.【評論】橋本治「敬語への自覚、他者への自覚」 10.【小説】目取真俊「魂込め」 11.【評論】今井むつみ「スキーマと記憶」・秋田麻早子「絵を見る技術」 12.【随想】杉本博司「能 時間の様式」	a: 文章読解に必要な語彙力を高めながら、文章の中で積極的に活用している。 b[読]: 評論を通じて、文章の論旨を捉えながら、批判的に検討し、文章の妥当性を吟味しながら内容についての考察を深めている。また小説、随想を通じて、語り手の視点や場面の設定の仕方、表現の特色について考察しながら、適切に内容を解釈している。 c: 小テストや授業中の発問、ワークシートなどに意欲的に取り組もうとしている。
後期期末	小説・文 随想・詩歌を 理解する IV	13.【評論】岩井克人「社会的実在としての言語・法・貨幣」 14.【詩歌】宮沢賢治「永訣の朝」・短歌・斎藤茂吉「死にたまふ母」 15.【随想】加藤周一「文学の仕事」 16.【評論】青木保「世界は、いま」・渡辺靖「グローバリゼーションと文化」	a: 文章読解に必要な語彙力を高めながら、文章の中で積極的に活用している。 b[読]: 評論を通じて、文章の論旨を捉えながら、批判的に検討しながら内容についての考察を深めている。また小説、随想を通じて、語り手の視点や場面の設定の仕方、表現の特色について考察しながら、適切に内容を解釈している。 b[書]: 文章の構成や表現などを吟味し、自分の文章の課題を捉えなおしながら文章作成を行っている。 c: 小テストや授業中の発問、ワークシートなどに意欲的に取り組もうとしている。

※ 表中の観点について a:知識・技能, b:思考・判断・表現, c:主体的に取り組む態度 である。

※ 授業進度等により教材等が変更されることもある。

教科	国語	科目	古典探究	単位数	2単位	年次	2年
使用教科書	精選 古典探究 古文編(明治書院)、古典探究 漢文編(明治書院)						
副教材等	体系古典文法 九訂版(数研出版)/体系古典文法 学習ノート/体系漢文 三訂版(数研出版)/体系漢文 準拠ノート(数研出版)/四訂版 古文単語330(いいずな書店)/デジタル版 ビジュアルカラー国語便覧(大修館書店)						

1 授業及び学習の方法等

- ・教科書の教材を主に使用するが、必要に応じてそれ以外の教材も選定する。
- ・補助教材としてプリントを配布・配信する。
- ・授業内では適宜ペアワークやグループワークを行い、多様な考え方に触れ、個人の意見を磨く機会を持つ。
- ・古文単語及び漢文句法のテストを定期的実施する。既習範囲は定期考査でも再度問う。

2 学習の到達目標

- (1)生涯にわたる社会生活に必要な国語の知識や技能を身に付けるとともに、我が国の伝統的な言語文化に対する理解を深めることができるようにする。
- (2)論理的に考える力や深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばし、古典などを通した先人のものの味方、感じ方、考え方との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができるようにする。
- (3)言葉が持つ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって古典に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚を深め、言葉を通して他者や社会に関わろうとする態度を養う。

3 学習評価(評価規準と評価方法)

観点	a:知識・技能	b:思考・判断・表現	c:主体的に取り組む態度
観 点 の 趣 旨	<ul style="list-style-type: none"> ・古典に用いられている語句の意味や用法を理解し、語感を磨き語彙を豊かにする。 ・古典の作品やその背景を知るとともに、古典常識を身に付け、理解を深める。 ・古典文法について理解を深める。 ・古典作品の修辞などの表現の特色について理解を深める。 	<ul style="list-style-type: none"> ・古典特有の表現に注意し、構成や展開を的確に捉える。 ・作品の成立した背景や他の作品などとの関係を踏まえながら古典などを読み、作品の価値について考察する。 ・内容や解釈を自分の知見と結び付け、考えを広げたり深めたりする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・古典の知識・技能の獲得に向けて、自ら学習を調整し学ぼうとしている。 ・学習の中で生じた疑問や課題に対して、さまざまな資料を活用し解決しようとしている。
評 価 方 法	<ul style="list-style-type: none"> ・定期考査 ・小テスト等 	<ul style="list-style-type: none"> ・定期考査 ・ワークシート等 	<ul style="list-style-type: none"> ・定期考査 ・ワークシート ・授業態度等

※ 上に示す観点に基づいて、学習のまとめごとに評価し、学年末に5段階の評定にまとめます。

※ 学習内容に応じて、それぞれの観点を適切に配分し、評価します。

4 学習活動

期	単元	内容(項目), 教材, 目標	主な評価規準
前期 中間	古典の受容	1.『伊勢物語』「初冠」 2.説話「漱石枕流」「不死之薬」 3.姨捨山の月	a: 古文・漢文の読解に必要な基礎的知識(基本古語・時代背景・助動詞や助詞、和歌の修辞、敬語法、漢文句法など)や技能が身に付いている。 b: 身に付けた知識を用いて、文章を読解することができる。 c: 小テスト及び課題の趣旨を理解して、意欲的に取り組んでいる。
前期 期末	古典の身分	4.『枕草子』「中納言参り給ひて」 5.『大鏡』「南院の競射」 6.『史記』「鴻門之会」「四面楚歌」	a: 古文・漢文の読解に必要な基礎的知識(基本古語・時代背景・助動詞や助詞、和歌の修辞、敬語法、漢文句法など)や技能が身に付いている。 b: 身に付けた知識を用いて、文章を読解したり表現したりすることができる。また、様々な作品間の文学的つながりや時代背景について理解を深めることができる。 c: 小テスト及び課題の趣旨を理解して、意欲的に取り組んでいる。
後期 中間	古典の憧憬	7.『史記』「項王自刎」 8.『更級日記』「門出」 9.漢詩「竹里館」「香炉峰下新卜山居草堂初成偶題東壁」「春夜」 10.老子「小国寡民」	a: 古文・漢文の読解に必要な知識(基本古語・時代背景・助動詞や助詞、和歌の修辞、敬語法、漢文句法など)や技能が身に付いている。 b: 身に付けた知識を用いて、文章を読解することができる。また、時代背景に着目して、作品を鑑賞することができる。 c: 小テスト及び課題の趣旨を理解して、意欲的に取り組んでいる。
後期 期末	古典の理想像	11.『源氏物語』「光源氏誕生」「小柴垣のもと」	a: 古文・漢文の読解に必要な知識(基本古語・時代背景・助動詞や助詞、和歌の修辞、敬語法、漢文句法など)や技能が身に付いている。 b: 身に付けた知識を用いて、文章を読解したり文章表現したりすることができる。また、これまで学んできた知識を活用し、『源氏物語』を鑑賞し味わうことができる。 c: 小テスト及び課題の趣旨を理解して、意欲的に取り組んでいる。

※ 表中の観点について a: 知識・技能, b: 思考・判断・表現, c: 主体的に取り組む態度 である。

※ 授業進度等により教材等が変更されることもある。

教科	国語科	科目	古典探究(3年)	単位数	2単位	年次	3年
使用教科書	古典探究 古文編(筑摩書房) 古典探究 漢文編(筑摩書房)						
副教材等	2025共通テスト対策【実力完成】直前演習 国語(Learns)/必携 これからの古典文法〔改訂版〕(尚文出版)/新版 理解を深める核心古文単語351(尚文出版) 古典文法練習ノート(尚文出版)/漢文必携 五訂版(桐原書店)/漢文必携 五訂版 チェックノート(桐原書店)						

1 授業及び学習の方法等

<ul style="list-style-type: none"> ・古文と漢文の学習の割合は、ほぼ3:2とする。 ・教科書の教材を主に使用するが、必要に応じてそれ以外の教材も選定する。 ・補助教材としてプリントを使用する。ノートの準備は不要。 ・授業時間内では、グループやペアでのワークがある。主体的に参加する必要がある。 ・1～2年生時に培った古典の基礎知識に基づいた読解力を駆使して、代表的な古典文学作品を読み深めていく。 ・「核心古文単語」は週1回程度出題する単語テストに取り組むこと。取り組んだ内容は、定期考査に出題する。 ・問題演習などを折に触れて実施することで、入試対応力を養う。

2 学習の到達目標

<p>①生涯にわたる社会生活に必要な国語の知識や技能を身につけ、古典に親しむことを通して他者や社会に関わろうとする態度を養う。特に、3年次では、多様なジャンルの文章を、特性を理解しながら読解することに重点を置く。</p> <p>②基本的な古典の語彙力(古文・漢文)や文法の知識を身に付け、それによって日本の伝統的な言語文化に対する理解を深める。</p> <p>③古典作品を通した先人のものの見方、感じ方、考え方との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができるようにする。</p>

3 学習評価(評価規準と評価方法)

観点	a: 知識・技能	b: 思考・判断・表現	c: 主体的に取り組む態度
観 点 の 趣 旨	<ul style="list-style-type: none"> ・古典に用いられている語句の意味や用法を理解し、語彙を豊かにする。 ・古典の作品や文章の種類、背景について理解を深める。 ・古典の文法事項、文章の構成や展開の仕方について理解を深める。 ・古典作品の修辞などの表現の特色について理解を深める。 	<ul style="list-style-type: none"> ・文章の種類を踏まえて、構成・展開を捉え、古典特有の表現に注意して内容を捉える。 ・作品の成立した背景や他の作品などとの関係を踏まえながら古典を読み、解釈を深める。 ・古典の作品と自分の知見を結び付け、考えを広げたり深めたりする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・古典の知識・技能の獲得に向けて、自ら学習を調整し、学ぼうとしている。
評 価 方 法	<ul style="list-style-type: none"> ・定期考査 	<ul style="list-style-type: none"> ・定期考査 ・課題の記述 ・授業内での取り組み状況 	<ul style="list-style-type: none"> ・課題の取り組み状況 ・授業内での取り組み状況

※ 上に示す観点に基づいて、学習のまとまりごとに評価し、学年末に5段階の評定にまとめる。

※ 学習内容に応じて、それぞれの観点を適切に配分し、評価する。

4 学習活動

期	単元	内容(項目), 教材, 目標	主な評価規準
前期中間	説話／随筆／故事成語	▼『今昔物語集』「鷲にさらわれた赤子」 ▼『枕草子』「里にまかでたるに」「上にさぶらふ御猫は」 ▼《比較読み》「螻蛄之斧」(『莊子』・『淮南子』) ▼近体詩 ▼共通テスト対策	a: ・語句の意味や用法・修辭を理解し, 古典を読むために必要な語句の量を増やすことに取り組んでいる。(1)ア、エ) ・文章の構成や展開の仕方について理解を深めることができる。(1)ウ) b: ・文章の種類を踏まえて, 古典特有の表現に注意して内容を的確に捉えることができる。(A(1)イ) ・他の作品との関係を踏まえながら古典を読み, その内容の解釈を深め, 作品の価値について考察することができる。(A(1)エ) c: 古典に親しみ自己を向上させ, 言葉を通して他者や社会に関わろうとしている。
前期期末	物語／評論	▼『源氏物語』「車争ひ」「母子の別離」「暁の雪」 ▼『源氏物語玉の小櫛』 ▼『無名抄』「おもて歌」 ▼古体詩 ▼《比較読み》『詩経』『古今和歌集真名序』『古今和歌集仮名序』 ▼共通テスト対策	a: ・語句の意味や用法・修辭を理解し, 古典を読むために必要な語句の量を増やすことに取り組んでいる。(1)ア、エ) ・文章の構成や展開の仕方について理解を深めることができる。(1)ウ) b: ・文章の種類を踏まえて, 古典特有の表現に注意して内容を的確に捉えることができる。(A(1)イ) ・古典の作品や文章について, 内容や解釈を自分の知見と結び付け, 考えを広げたり深めたりすることができる。(A(1)オ) ・古典の作品や文章を多面的・多角的な視点から評価することを通して, 日本の言語文化について自分の考えを広げたり深めたりすることができる。(A(1)ク) c: 古典に親しみ自己を向上させ, 言葉を通して他者や社会に関わろうとしている。
後期中間	日記／軍記物語／史伝／小説	▼『蜻蛉日記』「嘆きつつ」 ▼『和泉式部日記』「夢よりもはかなき世の中を」 ▼『平家物語』「能登殿の最期」 ▼『史記』「怒髪上衝冠」 ▼「人面桃花」 ▼共通テスト対策	a: ・語句の意味や用法・修辭を理解し, 古典を読むために必要な語句の量を増やすことに取り組んでいる。(1)ア、エ) ・文章の構成や展開の仕方について理解を深めることができる。(1)ウ) b: ・文章の種類を踏まえて, 古典特有の表現に注意して内容を的確に捉えることができる。(A(1)イ) ・古典の作品や文章に表れているものの見方, 感じ方, 考え方を踏まえ, 人間, 社会, 自然などに対する自分の考えを広げたり深めたりすることができる。(A(1)カ) c: 古典に親しみ自己を向上させ, 言葉を通して他者や社会に関わろうとしている。
後期期末	近世の小説	▼『雨月物語』「浅茅が宿」 ▼「前出師表」	a: ・語句の意味や用法・修辭を理解し, 古典を読むために必要な語句の量を増やすことに取り組んでいる。(1)ア、エ) ・文章の構成や展開の仕方について理解を深めることができる。(1)ウ) b: ・文章の種類を踏まえて, 古典特有の表現に注意して内容を的確に捉えることができる。(A(1)イ) ・古典の作品や文章に表れているものの見方, 感じ方, 考え方を踏まえ, 人間, 社会, 自然などに対する自分の考えを広げたり深めたりすることができる。(A(1)カ) c: 古典に親しみ自己を向上させ, 言葉を通して他者や社会に関わろうとしている。

※ 表中の観点について a: 知識・技能, b: 思考・判断・表現, c: 主体的に取り組む態度 である。

※ 授業進度等により教材等が変更されることもある。

教科	国語	科目	国語表現	単位数	2単位	年次	3年
使用教科書	国語表現(大修館書店)						
副教材等	国公立二次過去問選 現代文編(数研出版)、日経電子版新聞						

1 授業及び学習の方法等

<ul style="list-style-type: none"> ・実社会の問題や自分に関わる事柄の中から題材を見出し、自分の意見や考えを明確に言語化する演習を繰り返す。 ・文章表現の基本を学習したあとに、意見文作成・記述演習・小論文演習などを行い、表現力を高める。 ・電子版新聞を通じて時事的な知識を身につけていき、それを小論文ノートに整理する作業を通じて、実社会の問題に対して興味関心を抱き、主体的に思考する態度を養う。

2 学習の到達目標

<p>言葉による見方・考え方を働かせ、言語活動を通して、国語で的確に理解し効果的に表現する資質・能力を次のとおり育成することを目指す。</p> <p>(1) 実社会に必要な国語の知識や技能を身に付けるようにする。</p> <p>(2) 論理的に考える力や深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばし、実社会における他者との多様な関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができるようにする。</p> <p>(3) 言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって読書に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚を深め、言葉を通して他者や社会に関わろうとする態度を養う。</p>
--

3 学習評価(評価規準と評価方法)

観点	a:知識・技能	b:思考・判断・表現	c:主体的に取り組む態度
観点の趣旨	実社会に必要な国語の知識や技能を身に付ける。	論理的に考える力や深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばし、実社会における他者との多様な関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができる。	言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって読書に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚を深め、言葉を通して他者や社会に関わろうとする態度を養う。
評価方法	ワークシートの記述 ディスカッションと意見発表	ワークシートの記述 小論文ノートの記述 ディスカッションと意見発表	ディスカッションや演習への取り組み 小論文ノートの記述

※ 上に示す観点に基づいて、学習のまとまりごとに評価し、学年末に5段階の評定にまとめます。

※ 学習内容に応じて、それぞれの観点を適切に配分し、評価します。

4 学習活動

期	単元	内容(項目), 教材, 目標	主な評価規準
前期 中間	社会との接点／言語表現	1.社会の出来事に興味を持つ【話・聞】(3時間) 新聞記事の活用 2.文章表現の基礎 原稿用紙の使い方、悪文訂正【書】(3時間) 設問分析【話・聞】(3時間) 3.文章表現の演習【書】(9時間) 意見文、志望理由書、要約文	a:・目的や場面、相手、手段に応じた適切な表現や言葉遣いを理解し、使い分けることができる。 ・自分の考えを表現するために必要な語句の量を増やし、話や文章の中で使うことを通じて、語感を磨くことができる。 b:・自分の思いや考えが伝わるよう、具体例を効果的に配置するなど、話・文章の構成や展開を工夫することができる。 c:・授業内の課題に積極的に取り組んでいる。 ・ペアワークに積極的に参加している。 ・小論文ノートに積極的に取り組んでいる。
前期 期末	言語表現	4.社会の出来事を批評する【話・聞】(5時間) 新聞記事を用いたディスカッション・意見発表 5.自身の体験・活動を発表する【話・聞】(4時間) 読書体験や「グローバル探究Ⅱ」で取り組んだ活動等の言語化 6.文章表現の演習【書】(9時間) 設問分析をもとにした記述演習 小論文の記述演習	a:・自分の考えを表現するために必要な語句の量を増やし、話や文章の中で使うことを通じて、表現力を磨くことができる。 ・自身の言語表現を豊かにする読書の意義と効用について理解を深めている。 b:・自分の主張の合理性が伝わるよう、適切な根拠を効果的に用いるなど、話・文章の構成や展開を工夫することができる。 c:・授業内の課題に積極的に取り組んでいる。 ・ペアワークやディスカッションに積極的に参加している。 ・充実した小論文ノートを書くことができています。
後期 中間	言語表現	7.社会の出来事を批評する【話・聞】(5時間) 複数の新聞記事を用いたディスカッション・意見発表 8.文章表現の演習【書】(13時間) 設問分析をもとにした記述演習 小論文の記述演習	a:・自分の考えを表現するために必要な語句の量を増やし、話や文章の中で使うことを通じて、表現力を磨くことができる。 ・実用的な文章などの構成や展開の仕方などについて理解を深めている。 b:・自分の主張の合理性が伝わるよう、適切な根拠を効果的に用いるとともに、反論を想定して論理展開を考えるなど、話・文章の構成や展開を工夫することができる。 c:・授業内の課題に積極的に取り組んでいる。 ・ペアワークやディスカッションに積極的に参加している。 ・充実した小論文ノートを書くことができています。
後期 期末	文章表現	9.文章表現の演習【書】(16時間) 設問分析をもとにした記述演習 小論文の記述演習	a:・自分の考えを表現するために必要な語句の量を増やし、文章の中で使うことを通じて、表現力を磨くことができる。 ・実用的な文章などの構成や展開の仕方などについて理解を深めている。 b:・自分の考えが効果的に伝わるように書かれているか等を吟味して、文章全体を整えたり、自分の文章の特徴や課題を捉え直したりすることができる。 c:・授業内の課題に積極的に取り組んでいる。 ・ペアワークに積極的に参加している。

※ 表中の観点について a:知識・技能, b:思考・判断・表現, c:主体的に取り組む態度 である。

※ 授業進度等により教材等が変更されることもある。

※ 年間の各領域時間数「話・聞」…(20)時間、「書」…(50)時間

教科	国語	科目	精読古典	単位数	2単位	年次	3年
使用教科書							
副教材等	新版 源氏物語で理解する 敬語・識別マスターワーク(数研出版)／必携 これからの古典文法(改訂版)(尚文出版)／漢文必携 五訂番(桐原書店)／各種プリント等						

1 授業及び学習の方法等

<p>1.副教材、ならびに配布したプリントに沿って授業を進める。古文は敬語を中心に、漢文は句法を意識しながら、本文全体を自力で、正確に読解する力を養う。</p> <p>2.必要に合わせて追加プリント、資料等を随時配布し、当時の時代背景を理解しながら、より深い読解への助けとする。</p> <p>3.一貫して『源氏物語』を用いることで、教材同士の繋がりを意識し、前後の学習に関連を持たせる。</p> <p>4.自ら思考を進めていくための種を蒔き、古典文学に対する意欲的な姿勢を促す。</p>
--

2 学習の到達目標

<p>1.高校二年間で培った知識を、文章内で活用していく術を身に付ける。一問一答にならず、本文に見合った訳を適切に思い描けるようになる。</p> <p>2.単語や文法だけでなく、正確な読解に必要な不可欠な古典常識等を知る。多方面の見解によって紙上の文学を立体視するよう心がけ、文学の広がりを実感する。</p> <p>3.初読の文章であっても怯まず意欲的に読み取ろうとする意識を高める。結果的に共通テストや二次試験にも通用する読解力を習得する。</p> <p>4.文章を記号的に読むのではなく、細部まで深く味わい、文学を鑑賞することのできる力を養う。</p>
--

3 学習評価(評価規準と評価方法)

観点	a:知識・技能	b:思考・判断・表現	c:主体的に取り組む態度
観 点 の 趣 旨	<ul style="list-style-type: none"> 基礎的な単語や文法を記憶し、文章読解に活かすことができるか。 インプットした知識を咀嚼し、定着させ、状況に合わせてアウトプットすることができるか。 	<ul style="list-style-type: none"> 当時の時代背景や思想を意識し、読解に励むことができるか。 人物の心情等を正確に把握し、現在の自分と照らし合わせて考えることができるか。 	<ul style="list-style-type: none"> 初めて読む文章に対し、意欲的に臨むことができるか。 発問等に、積極的に答えようとする姿勢が見られるか。
評 価 方 法	<ul style="list-style-type: none"> 定期考査 ワークシート 小テスト 等	<ul style="list-style-type: none"> 定期考査 ワークシート レポート 等	<ul style="list-style-type: none"> 授業態度 ワークシート レポート 等

※ 上に示す観点に基づいて、学習のまとめごとにより評価し、学年末に5段階の評定にまとめます。

※ 学習内容に応じて、それぞれの観点を適切に配分し、評価します。

4 学習活動

期	単元	内容(項目), 教材, 目標	主な評価規準
前期 中間		1.『源氏物語』桐壺・夕顔・紅葉賀・葵 2.『晋書』『文章軌範』『世説新語』	a:汎用性の高い頻出単語や文法を、文章内から見つけることができる。断片的な知識を繋げて、読解のために活用することができる。 b:中古の代表的な文学を読みながら、古来より多大な影響を受けてきた中国漢文文化と日本文化との関係について、理解を深める。 c:文章を読む上で、今まで得た知識をもとに読み進めようと意欲を持つ。与えられた問いばかりではなく、自ら疑問点を探し答えを導こうとする。
		3.『源氏物語』須磨・明石・薄雲・蛭 4.『西京雜記』『後漢書』『商君書』	a:敬語を用いた表現方法を理解し、正確な読解へと繋げる。漢文の読解や鑑賞に必要な知識を学習する。 b:異なる国、様々な時代の人物の生き方について考える。 c:文章を読む上で、今まで得た知識をもとに読み進めようと意欲を持つ。与えられた問いばかりではなく、自ら疑問点を探し答えを導こうとする。
後期 中間		5.『源氏物語』野分・若菜・御法・幻 6.『宋名臣言行録』『蒙求』『貞観政要』	a:単語や文法の知識を定着させ、場面に合わせてアウトプットすることができる。同時に漢文の句法に関する理解と使用法を理解する。 b:日本古典と中国思想に関する漢文を読み比べながら、現代にも通ずる思想を自らのものとして考え得る。 c:文章を読む上で、今まで得た知識をもとに読み進めようと意欲を持つ。与えられた問いばかりではなく、自ら疑問点を探し答えを導こうとする。
後期 期末		7.『源氏物語』橋姫・手習 8.『史記』『韓詩外伝』漢詩	a:初めて読む文章でも、今まで蓄積した知識を駆使して理解しようと努める。 b:複数の資料を比較するタイプの問題にも、適応する思考力を持つ。 c:文章を読む上で、今まで得た知識をもとに読み進めようという意欲を持つ。与えられた問いばかりではなく、自ら疑問点を探し答えを導こうとする

※ 表中の観点について a:知識・技能, b:思考・判断・表現, c:主体的に取り組む態度 である。

※授業進度等により教材等が変更されることもある。

教科	国語	科目	論理国語	単位数	2単位	年次	3年
使用教科書	論理国語(筑摩書房)						
副教材等	常用漢字ダブルクリア 四訂版(尚文出版)/現代文単語 改訂版(いっずな書店)/2024共通テスト対策【実力完成】直前演習問題 現代文(Learn-S)/デジタル版 ビジュアルカラー国語便覧(大修館書店)						

1 授業及び学習の方法等

<ul style="list-style-type: none"> ・教科書の教材を主に使用するが、必要に応じてそれ以外の教材も選定する。 ・補助教材としてプリントを配布または配信する。 ・授業内では適宜ペアワークやグループワークを行い、多様な考え方に触れ、意見を磨く機会を持つ。 ・接続詞と代名詞を的確に捉え、構成と表現を意識した読解力を培う。 ・常用漢字及び現代文単語は主に授業時間外の課題とし、確認テストを定期的に行う。既習範囲は定期考査でも再度問う。 ・問題演習を定期的実施、大学入試への対応力を養う。
--

2 学習の到達目標

<p>(1) 実社会に必要な国語の知識や技能を身に付けるようにする。</p> <p>(2) 論理的、批判的に考える力を伸ばすとともに、創造的に考える力を養い、他者のとの関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができるようにする。</p> <p>(3) 言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって読書に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚を深め、言葉を通して他者や社会に関わろうとする態度を養う。</p>
--

3 学習評価(評価規準と評価方法)

観点	a:知識・技能	b:思考・判断・表現	c:主体的に取り組む態度
観 点 の 趣 旨	<ul style="list-style-type: none"> ・論証したり学術的な学習の基礎を学んだりするために必要な語句の量を増やし、語感を豊かにする。 ・効果的な段落の構造や論の形式など、文章の構成や展開の仕方について理解を深める。 ・情報を重要度や抽象度によって整理し、情報と情報との関係について理解を深める。 	<ul style="list-style-type: none"> ・文章の種類を踏まえて、内容や構成、論理の展開などを的確に捉え、論点を明確にしながら要旨を把握する。 ・文章の内容や解釈を多様な論点や異なる価値観と結び付けて、新たな観点から自分の考えを深める。 ・自分の主張が的確に伝わるか吟味し、読み手からの助言を踏まえて、文章を整える。 	<ul style="list-style-type: none"> ・総合的な言語能力の獲得に向けて、学ぼうとしている。 ・読み取った文章を自分の身近な問題として把握し、課題に臨もうとしている。
評 価 方 法	<ul style="list-style-type: none"> ・定期考査 ・ワークシートの提出 ・確認テスト等 	<ul style="list-style-type: none"> ・定期考査 ・ワークシートの提出等 	<ul style="list-style-type: none"> ・ワークシートの提出 ・授業内での取り組み状況等

※ 上に示す観点に基づいて、学習のまとめごとにより評価し、学年末に5段階の評定にまとめます。

※ 学習内容に応じて、それぞれの観点を適切に配分し、評価します。

4 学習活動

期	単元	内容(項目), 教材, 目標	主な評価規準
前期 中間	先入観と「私」	1. アイオワの玉葱 2. 本当は怖い「前提」の話 3. 近代の成立—遠近法	a: 身に付けた知識を用いて、接続詞や代名詞に着目し、文章の構成や展開などを的確に捉えることができる。 b: 筆者の考え方や物事を見る観点を学び、自身の視野を広げたり深めたりすることができる。 c: 小テストや授業中の発問、ワークシートなどに意欲的に取り組もうとしている。
前期 期末	社会と「私」	4. 数字化される世界 5. 変貌する聖女 6. 生物の作る環境 7. 貧困は自己責任なのか	a: 身に付けた知識を用いて、情報を重要度や抽象度によって階層化し整理できる。 b: 多面的・多角的な視点から自分の考えを見直したり、根拠や論拠の吟味を重ねたりして、主張を持ち明確にできる。 c: 小テストや授業中の発問、ワークシートなどに意欲的に取り組もうとしている。
後期 中間	伝統と「私」	8. 模倣と「なぞり」 9. 桜が創った「日本」 10. 男の絆、女たちの沈黙 11. 「自然を守る」ということ 12. 貨幣共同体	a: 主張とその前提や反証など情報との関係について理解を深めることができる。 b: 関連する文章や資料を基に、書き手の立場や目的を考えながら、内容の解釈を深めることができる。 c: 小テストや授業中の発問、ワークシートなどに意欲的に取り組もうとしている。
後期 期末	「私」とこれから	13. ことばへの問い 14. 物語としての自己 15. 思考の誕生 16. 何のための「自由」か 17. 記憶の満天	a: 文章種類に基づく効果的な段落の構造や論の形式など、文章の構成や展開の仕方について理解を深めることができる。 b: 身に付けた知識を用いて、文章の構成や展開を捉え、論点を明確にしながらか要旨を把握することができる。 c: 小テストや授業中の発問、ワークシートなどに意欲的に取り組もうとしている。

※ 表中の観点について a: 知識・技能, b: 思考・判断・表現, c: 主体的に取り組む態度 である。

※ 年間の各領域時間数 「読」…(45)時間、「書」…(25)時間

※ 授業進度等により教材等が変更されることもある。